目次

第一講　文法・敬語 …… p.2
第二講　文法総まとめスピードチェック …… p.26
第三講　単語・重要語句 …… p.45
第四講　総合演習問題 …… p.68
付録 …… p.78

第一講　文法・敬語

予習箇所　「　　」に適切な語・文字を入れて、見分け方を完成させておくこと。各問も答えよ。

●「に」の識別

① 動詞の一部

{死・往・去}に　＝ナ変の一部

似る・煮る＝上一段の一部

② 形容動詞の一部

様子＋に

〜{か・げ・ら}に　の形が多い

③ 完了の助動詞「ぬ」の連用形

「　　形」＋に（＋{き・けり・たり}の形が多い）

④ 断定の助動詞「なり」の連用形

「　　・　　形」＋に

＊「断定」になりやすい形

・に＋（助詞）＋あり

・に＋{や・か・こそ}　。、

⑤　格助詞「に」

「　　・　　形」＋に

＊ V（＝連用形）**に** V　（例）泣き**に**泣きて…
（同じV）

⑥　接続助詞「に」

「　　形」＋に、

＊「、」を目安に、**「ので・のに・ところ」**で訳してみる。

⑦　副詞・副助詞の一部

副詞＝さらに・よに・いかに…等。

副助詞＝だに

★気をつけるべき「に」

○上が「～か・げ・ら」ではない形容動詞

むべに・そぞろに・すずろに・いうに（優に）・あてに・あからさまに・ねんごろに・つれづれに…等

○「にき・にけり・にたり」でも、接続は必ず確認！

死・往・去 ＋ に ＋ き・けり・たり

○下に「あり」があっても「あり＝　　　」の意味がある場合は「　　　」。もちろん接続も必ず確認。

「にや・にか・にこそ」も接続確認は忘れずに！

問1　次のそれぞれの「に」を文法的に説明せよ。

ア　女、野にありて…

イ　むべにこそあなれ。

●「なり」の識別

①動詞「なる」の連用形

〜「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」＋なり　の形が多い。

②形容動詞ナリ活用の活用語尾

様子＋なり

〜「　　」「　　」「　　」＋なり　の形が多い。

③断定・存在の助動詞「なり」〈「　　」＋あり〉

「　　・　　形」＋なり

＊「　　」＋なり＝存在

④伝聞・推定の助動詞「なり」〈「　　」＋あり〉

「　　形」＋なり

＊ラ変型＝「　　形」に付く

★撥音便（無表記）＋なり＝「　　」

〜「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」（**ん**）なり

＊「**な**なり」「**な**めり」の「**な**」＝「　　」

問２　次の傍線部Ａ〜Ｄ「なり」の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ後のア〜オの中から一つずつ選べ（同じ記号は一度しか使えない）。

年は五十余（よ）に<u>なり</u>（Ａ）ぬるに、
心ばへもよきおはす<u>なり</u>（Ｂ）。
あてなる人<u>なり</u>（Ｃ）。
姫君、見も入れ給はず、ことわり<u>なり</u>（Ｄ）。

ア　四段動詞「なる」の連用形
イ　形容動詞の活用語尾
ウ　伝聞推定の助動詞「なり」の終止形
エ　断定の助動詞「なり」の連用形
オ　断定の助動詞「なり」の終止形

Ａ＝　　　　Ｂ＝　　　　Ｃ＝　　　　Ｄ＝

●「ぬ」の識別

①打消の助動詞「ず」の連体形

・「　　形」＋ぬ

・ぬ＋「　　形」接続の語

＊**ぬ**＋[体言]

②完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形

・「　　形」＋ぬ

・ぬ＋文末の形・「　　形」接続の語

＊文末の時は「　　・係り結びの法則」に注意！

●「ね」の識別

①打消の助動詞「ず」の已然形

・「　　形」＋ね

＊
- **ね**ば
- **ね**ど（も）
- こそ〜**ね**

②完了の助動詞「ぬ」の命令形

・「　　形」＋ね

・ね＋文末の形・命令形接続の語

問3　次の傍線部の助動詞の意味としてふさわしいものを、後の中からそれぞれ一つずつ選べ。

つらさも消えぬ[A]べし。
あかつきの別れはいつも露けきをこは世に知らぬ[B]秋の空かな

ア　打消　　イ　完了　　ウ　自発
エ　断定　　オ　伝聞

A＝　　　　B＝

●「る・れ」の識別

①受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」
上の音が「　」段＝四段・ナ変・ラ変の未然形

②完了・存続の助動詞「り」
上の音が「　」段＝サ変の未然形・四段の已然形

③活用語の一部
上の音が「u」段　（例）忘る**る**・覚ゆ**る**…等

★上の音は目安になるが、接続をきちんと確認しよう！

問４　次のそれぞれの「る」の文法的説明として正しいものを、次の中から一つ選べ。

戸口さへさながらなる[A]に、…
思ひ続くることども多かる[B]を、…

ア　断定の助動詞の一部　　イ　完了の助動詞　　ウ　自発の助動詞
エ　尊敬の助動詞　　オ　形容詞の活用語の一部

A＝　　　　B＝

●「らむ」の識別

①　現在推量の助動詞「らむ」
上の音が「　　」段＝終止形（ラ変型＝連体形）

②　完了・存続の助動詞「り」の未然形＋推量系の助動詞「む」
上の音が「　　」段＝サ変の未然形・四段の已然形

③　「〜ら」となる活用語の未然形＋推量系の助動詞「む」
上の音が「　　」段が多い

問5　次の傍線部の中で一つだけ種類が違うものを選べ。

ア　文を書きたてまつらむ。
イ　この山にとくのぼらむとて…
ウ　生めらむ子も生ひ立ちなば、…
エ　美しからむ子のおはすれば…
オ　女房たち、おどしはべらむと申す。

●「し」の識別

① サ変動詞「す」の連用形

「する」と訳せる

② 過去の助動詞「き」の連体形

「　　　形」＋し

＊**し**＋[体言]

③ 強意の副助詞「し」

「**し**も」「**し**ぞ」

「A**し**Bば」

＊省いてもおかしくない「し」

問６ 次の波線部(a)～(h)の「し」のうち、サ行変格活用動詞・形容詞の一部・過去の助動詞、の**いずれでもないもの**が二つある。それはどれか。正しい組合せを、後の中から一つ選べ。

かの人の入りに(a)し方に入れば、…

「あなおそろ(b)し。音(c)し給(たま)へ」

かうあさましき住まひ(d)し侍(はべ)れば、…

『うときより』と(e)しもいふなれば、おぼつかなきこそ頼も(f)しかなれ。

「誰(たれ)と聞こえ(g)し」

いとほのかにかき鳴ら(h)してゐたれば、…

ア　(a)と(d)

イ　(b)と(e)

ウ　(c)と(f)

エ　(d)と(g)

オ　(e)と(h)

●「なむ」の識別

①　他者願望〈あつらえ〉の終助詞「なむ」

「　　形」＋なむ（文末）

②　（完了）・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量系の助動詞「む」

「　　形」＋なむ

③　ナ変動詞の活用語尾＋推量系の助動詞「む」

死
往
去
｝＋なむ

④　強意の係助詞「なむ」

①〜③以外＋なむ

＊連用形につく場合 ⬇ 形容詞「〜　　」＋なむ／形容動詞「〜　　」＋なむ／打消の助動詞「ず」＋なむ

問7 「思ひの色に立ち出ては、悪しかりなむ」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　動詞の語尾「な」＋助動詞「む」終止形
イ　助動詞「ぬ」未然形＋助動詞「む」終止形
ウ　係助詞「なむ」
エ　終助詞「なむ」

●「ん＝む」の意味

①「文中」か「文末」に分ける。

文中＝仮定・婉曲
文末＝推量・意志・勧誘適当

②「文中」の場合

む＋体言 ⬇「　　　」が多い。

③「文末」の場合

一人称＝意志
二人称＝勧誘適当
その他＝推量
が多い。

「と」の上の「む」⬇「　　　」が多い。

＊「これならんかし」の「ん」は文末扱い。↑「かし」は言い切りの形に接続する。

問８　次の波線部ａ～ｄの文法的説明の組合せとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

かくなん(a)、…
「いかなる所にかおはすらん(b)」
わが失(う)せたらん(c)には、…
姫君に婚(あ)はせん(d)とありし宰相…

ア　ａ　係助詞の一部　ｂ　現在推量の助動詞の一部
　　ｃ　現在推量の助動詞の一部　ｄ　適当・勧誘の助動詞
イ　ａ　係助詞の一部　ｂ　現在推量の助動詞の一部
　　ｃ　仮定・婉曲(えんきょく)の助動詞　ｄ　意志の助動詞
ウ　ａ　係助詞の一部　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　仮定・婉曲の助動詞　ｄ　適当・勧誘の助動詞
エ　ａ　終助詞の一部　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　仮定・婉曲の助動詞　ｄ　適当・勧誘の助動詞
オ　ａ　終助詞の一部　ｂ　推量の助動詞
　　ｃ　現在推量の助動詞の一部　ｄ　意志の助動詞

●「て」の識別

①　接続助詞「て」

「　　形」につき、下に助動詞が「　　　　」

②　完了の助動詞「つ」

「　　形」につき、下に助動詞が「　　　　」

※例外：連用形＋「**てば**」「**てばや**」の「**て**」は「完了の助動詞」

問９　「のたまひは**て**ば」の「て」の文法的説明として正しいものを選べ。

ア　完了の助動詞　　　イ　動詞の活用語尾

問10　次の波線部(a)〜(f)についての文法的説明として正しくないものを、後の中から一つ選べ。

今年十年（ととせ）まり七年（ななとせ）になむな(a)れれば、
その頃（ころ）は公事（おほやけごと）さし合(b)ひぬべかめれば、
いたはりおこた(c)りなば、
憂ひ嘆か(d)れしを、
この事にあ(e)へるも、
あり果(f)てぬ世にはあれども今はとて

ア　(a)「れれ」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「り」の已然形が接続したもの。
イ　(b)「ひぬ」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「ぬ」の終止形が接続したもの。
ウ　(c)「りな」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「ぬ」の未然形が接続したもの。
エ　(d)「れし」は、尊敬の助動詞「る」の連用形に、過去の助動詞「き」の連体形が接続したもの。
オ　(e)「へる」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞「り」の連体形が接続したもの。
カ　(f)「てぬ」は、完了の助動詞「つ」の未然形に、打消の助動詞「ず」の連体形が接続したもの。

●願望の終助詞

未然形＋**ばや**／連用形＋**てしがな・にしがな**＝自己願望（〜たい）

未然形＋**なむ**＝他者願望〈あつらえ〉（〜てほしい）

もがな＝状態願望（〜があればなあ・〜であればなあ）⬇訳した時に、自己願望や他者願望のような訳になるときもある

（例）　君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな

あなたにお逢いするためなら惜しくないと思っていた命まで、（あなたにこうしてお逢いできた後は、これからもずっとお逢いできるように）「　　　　」と思うようになったことだなあ。

●「いかで（か）／いかにして＋〜願望・意志」の訳し方

いかで（か）／いかにして＋
- 推量
  - 疑問＝どうして〜か
  - 反語＝どうして〜か、いや〜でない
- **願望・意志＝なんとかして〜・どうにかして〜**

問11　「いかにして御そば近く参りて朝夕見奉り心を慰めばやと思ひめぐらして、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　思い直して
イ　どのようにして
ウ　どういうわけで
エ　なんとかして
オ　いずれにしても

●〈敬語〉補助動詞の種類と訳し方

Ⓢ＝
- 給ふ（四段）
- おはす
- おはします
- います
- まします

〈訳〉～なさる・お～になる

Ⓚ＝
- 奉る
- 申す
- 聞こゆ
- 参らす
- 給ふ（下二段）

〈訳〉（お）～（し）申し上げる・お～する・～いたす

給ふ（下二段）⬇

〈訳〉～です・～ます・～させていただく

Ⓣ＝
- 侍り
- 候ふ

〈訳〉～です・～ます・～ございます

「補助動詞　２つの『給ふ』」

敬語の種類	活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
尊敬語	**四段**	ⓗ(は)	(ひ)	(ふ)	(ふ)	へ	へ
謙譲語	**下二段**	へ	へ	（ふ）	ふる	ふれ	（へよ）

＊謙譲（下二段）の終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

●「給は・給ひ・給ふ」＝尊敬の補助動詞

●「給ふる・給ふれ」＝謙譲の補助動詞

●「給へ」の場合⬇「下（＝活用形）」確認。

★謙譲の補助動詞「給ふ」の特徴

① 「会話文」・「手紙文」で使用。

② 「思ふ」・「覚ゆ」・「見る」・「聞く」・「知る」にしかつかない。

③ 主語は「Ｉ」（＝会話主）

④ 訳は「〜ます」・（「〜させていただく」）

⑤ 敬意の方向＝聞き手に対する敬意

問12　「おぼつかなく思ひ給へて」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　そんなはずはないとお思いになって
イ　待ち遠しいと思われて
ウ　頼りないとお考えになって
エ　訳を知りたいと思し召して
オ　気がかりに存じまして

●「敬意の方向」

「誰から」➡敬語の場所

○地の文＝「作者」から

○会話文＝「話し手」から

「誰へ」➡敬語の種類

○尊敬語＝「主体（～は・が）」へ

○謙譲語＝「客体（～を・に）」へ

○丁寧語➡敬語の場所

・地の文＝「読者」へ

・会話文＝「聞き手」へ

＊Ⓚの補助動詞「給ふ」＝**「聞き手」**に対する敬語

問13　次の波線部ａ～ｃの敬語の説明の組合せとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

（中略）いそぎおはして、かの立てたる御車に這(は)ひ入り給ひて、「これ、召しつらん所へさし寄せよ。すでに出で〔a〕給ふぞ」とのたまふに、御供の人々、うち薫る御匂(にほ)ひ、えんなる御姿のなまめかしさなど、ただわが君と思ひ聞こえければ、いとあやしげに思ひたるも、ことわりにをかしきに、ただ今ぞ君はあゆみ出で給ふなる。いかさまにも、さてあるべきならねば、やをらさし寄せたるに、乗り給ふや遅きと、御手をとらへて引き据ゑ〔b〕聞こえ給ひつつ、

「深き縁(え)の心の奥はしらねどもこれも忍ぶの道ならぬかは

かくは修行者(すぎやうざ)よ。あな尊(たふと)や。今は験(げん)付き〔c〕給ひぬらん。祈りして給はせよ」とのたまふに、…

ア　a　中将から大将への敬意を示す尊敬語　b　大将から中将への敬意を示す謙譲語　c　大将から中将への敬意を示す謙譲語

イ　a　大将から中将への敬意を示す尊敬語　b　作者から中将への敬意を示す謙譲語　c　大将から中将への敬意を示す尊敬語

ウ　a　中将から大将への敬意を示す尊敬語　b　作者から中将への敬意を示す謙譲語　c　大将から中将への敬意を示す謙譲語

エ　a　大将から中将への敬意を示す尊敬語　b　御供の人々から中将への敬意を示す謙譲語　c　中将から大将への敬意を示す尊敬語

オ　a　大将から中将への敬意を示す尊敬語　b　御供の人々から中将への敬意を示す謙譲語　c　大将から中将への敬意を示す尊敬語

第二講　文法総まとめスピードチェック

次の各問いに答えよ。

問1　「このほどは、仕（つか）へ女（め）と見ゆる乙女を<u>ゐ</u>て、ふたりにて来る」の傍線部を漢字に直すとき、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　居　　イ　要　　ウ　率　　エ　為　　オ　座

問2　「かたはしより、<u>上下（かみしも）みなかづけたれば</u>、かづきあまりて、ふた間（ま）ばかり積みてぞおきたりける。」の傍線部の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

ア　帝は上下の衣を揃えて、臣下にお持たせになったので
イ　臣下は部屋の隅から隅まで、整理整頓につとめたので
ウ　位の高い者も低い者もみな、玉淵の娘に衣服を与えたので
エ　上座の者から下座の者まで、ひれ伏したので
オ　臣下は帝に、我も我もと新しい衣服をさしあげたので

問3　「騒がしかりつる」の文法的説明として、最適なものを次の中から選べ。

ア　「騒がしかり」は動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
イ　「騒がしかり」は形容詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。
ウ　「騒がし」は形容詞の連体形、「かり」は助詞、「つる」は助動詞の已然形。
エ　「騒がし」は動詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
オ　「騒がし」は形容詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。

問4　次の傍線部の活用形として最も適当なものをそれぞれ後の中から選べ。

すはや楠（くすのき）が多年の本望ここに遂げ①ぬと見えたるところに、…
たとひ千両万両の鎧②なりとも、何か惜しかるべきぞ。
この言葉の情を思ひ入りたるその心地、言は③ねども色に現れたり。
いにしへも今も大将たら④む人は、皆罰をば軽く行ひなだめ、…

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問5 次の傍線部「けれ」の中で、文法上のはたらきが他と異なるものを次の中から一つ選べ。

ア　乳母もなけれ[けれ]ば
イ　おとづれけれ[けれ]ば
ウ　なかりけれ[けれ]ば
エ　いひけれ[けれ]ば

問6 次の傍線部a・bの助動詞の意味として適切なものを、それぞれ後の中から一つずつ選べ。

御住み処まであり[a]し者なりけり。
この中隔てなる三条を呼ば[b]すれど、食ひ物に心入れて…

ア　推量　イ　詠嘆　ウ　希望　エ　断定　オ　疑問
カ　打消　キ　過去　ク　尊敬　ケ　完了　コ　使役

a＝　　　b＝

問7　次の傍線部の意味として、最も適当なものをそれぞれ後の中から選べ。

「小野小町がひぢに掛け①けむ筐よりはめでたし」など言ふ人あり。所のさま、神さび古めかしかり②つるほどよりはめやすきさま③なるめるかなと見る。久しくなりてはかばかしくもおぼえ④ねば、いとかひなしや…人なみなみのことにははべらざり⑤しかども、数ならずながら…

ア　意志　　イ　現在推量　　ウ　完了　　エ　打消
オ　断定　　カ　過去伝聞　　キ　過去

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問8　次の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、後の中から一つずつ選べ。ただし、同じ記号を何度用いてもよい。

わざと物語などに作り出だしたら①むやうにおはすれば、やさしくすきずきしきこと多くて、…
九重にうつろひ②ぬとも菊の花もとのまがきを忘れざらなむ

ア　推量　　イ　意志　　ウ　婉曲　　エ　適当　　オ　完了　　カ　断定

①＝　　②＝

問9　「兼好、いと心そらにうちまもられつつ…」の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選べ。

ア　ある人に誘はれ奉りて、明くるまで月見ありくこと侍りしに
イ　同じ屋敷の裏に隠居建てて、母親の住まれしが
ウ　かくてもあられけるよと、あはれに見るほどに
エ　かへりてはつらくなん、かしこき御心ざしを思ひ給へられはべる
オ　いみじき武士、仇敵なりとも、見てはうち笑まれぬべきさまのし給へれば

問10　「みどりの色もまじれるに、…」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを一つ選べ。

ア　ラ行四段活用動詞「まじる」の已然形＋存続の助動詞「り」の連体形
イ　ラ行四段活用動詞「まじる」の已然形＋自発の助動詞「る」の連体形
ウ　ラ行下二段活用動詞「まじる」の連用形＋存続の助動詞「り」の連体形
エ　ラ行下二段活用動詞「まじる」の未然形＋自発の助動詞「る」の連体形

問11　次の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

人の御心もいと頼みがたく、「いつまで」とのみながめられ給ふに、四、五日いぶせくて積りぬるを…

ア　受身　　イ　自発　　ウ　尊敬　　エ　可能　　オ　存続

問12　左のア〜エの和歌のうち、傍線部が「しひてしたひ来にけり」の「に」と同じ品詞・意味のものはどれか。正しいものを一つ選べ。

ア　いざ子ども早く大和（やまと）へ大伴の御津（みつ）の浜松待ち恋ひぬらむ　（万葉集）

イ　思ひつつぬればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを　（古今集）

ウ　契りおきしさせもが露を命にてあはれ今年の秋もいぬめり　（千載集）

エ　春の色のいたりいたらぬ里はあらじ咲ける咲かざる花の見ゆらむ　（古今集）

問13　「この文字といふものなからましかば、今の世の我らが片端も、いかでか書き伝へまし」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　文字などなくても、ささいなことでありさえすれば伝えることはできるということ。
イ　文字などなくても、なんとかしてごくわずかでいいから後世に伝えようということ。
ウ　文字があるからこそ、ささいなことも後世に伝えようという気になれるということ。
エ　文字があるからこそ、ほんのわずかなことも書き伝えることができるということ。
オ　文字がなかったなら何も書き伝えられないが、それはささいなことだということ。

問14　「ひがひがしと人々もどき聞こゆなり、と聞き給ふことなれど…」の傍線部「なり」と文法上の分類や用法が最も近いものを次の中から選べ。

ア　浮かびたるやうなるは
イ　思ひ定め給ふなる
ウ　音なくなりぬるを
エ　似げなきことなり
オ　めづらかなりける

問15 「おもしろき夢や見つらむ」の傍線部の文法的な説明として最も適当なもの一つを、次記各項の中から選べ。

ア 「見」は動詞、「つ」は完了の助動詞、「らむ」は推量の助動詞
イ 「見」は動詞、「つ」は完了の助動詞、「ら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞
ウ 「見」は動詞、「つら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞
エ 「見つ」は動詞、「らむ」は推量の助動詞
オ 「見つ」は動詞、「ら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞

問16 「いづくの島守となれらむ」の傍線部の文法的説明として最適なものを次の中から選べ。

ア ラ行下二段活用の動詞＋現在推量の助動詞
イ ラ行下二段活用の動詞＋完了の助動詞＋婉曲の助動詞
ウ ラ行下二段活用の動詞＋婉曲の助動詞
エ ラ行四段活用の動詞＋現在推量の助動詞
オ ラ行四段活用の動詞＋完了の助動詞＋婉曲の助動詞

問17 「捨て果てさせ給ふ［　　］にやと、頼みをぞかけきこえける」の空欄に助動詞「まじ」を適切に活用させて記せ。

問18 次の空欄 a ～ d に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを後の中から一つ選べ。

「～よろしき歌詠み出で a ば、面目もあり、道の名誉もいでき b べし。さはあれど、所々にへつらひ歩きて、人に馴らされたち c ば、歌にとりて人に知らるる方はありとも、遷度のさはりとはかならずなるべかめり。（中略）人に言はれむと思はるべきぞ」となむ、教へ侍り d 。

ア　a　たら　b　ぬ　c　なれ　d　し
イ　a　たら　b　ぬ　c　な　d　し
ウ　a　たれ　b　ぬ　c　な　d　しか
エ　a　たれ　b　ぬる　c　なれ　d　し
オ　a　たら　b　ぬる　c　なれ　d　しか

問19 「おはするにこそ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　サ行下二段活用動詞の連体形＋格助詞＋係助詞
イ　サ行四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の連体形＋接続助詞＋係助詞
ウ　サ行下二段活用動詞の連体形＋断定の助動詞の連用形＋係助詞
エ　サ行変格活用動詞の連体形＋格助詞＋係助詞
オ　サ行変格活用動詞の連体形＋断定の助動詞の連用形＋係助詞

問20 「資盛の侍従のつかうまつれるにや。」の傍線部の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「つかうまつる」の一部＋完了の助動詞「ぬ」＋疑問の助詞「や」
イ　動詞「つかうまつる」の一部＋断定の助動詞「なり」＋詠嘆の助詞「や」
ウ　完了の助動詞「り」＋断定の助動詞「なり」＋疑問の助詞「や」
エ　完了の助動詞「り」＋伝聞の助動詞「なり」＋詠嘆の助詞「や」
オ　尊敬の助動詞「る」＋完了の助動詞「ぬ」＋詠嘆の助詞「や」

問21 「やみなんずるなめり」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　動詞　＋　意志の助動詞　＋　強意の助動詞　＋　完了の助動詞
イ　動詞　＋　推量の助動詞　＋　打消の助動詞　＋　完了の助動詞　＋　断定の助動詞　＋　推量の助動詞
ウ　動詞　＋　係助詞　＋　打消の助動詞　＋　動詞　＋　完了の助動詞
エ　動詞　＋　完了の助動詞　＋　打消の助動詞　＋　完了の助動詞　＋　推量の助動詞　＋　完了の助動詞
オ　動詞　＋　完了の助動詞　＋　推量の助動詞　＋　断定の助動詞　＋　推量の助動詞

問22　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを後の中から選べ。

将門（まさかど）が乱など出できて、怖（おそ）れ過ごさせおはしましましほどに、やがて代はらせたまひにしぞかし。

＊将門が乱　天慶二（九三九）年から同三年にかけて平将門が起こした戦乱。

ア　動詞＋使役の助動詞＋補助動詞＋格助詞＋過去の助動詞＋係助詞＋終助詞
イ　動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋動詞＋係助詞＋終助詞
ウ　動詞＋補助動詞＋格助詞＋尊敬の助動詞＋終助詞＋終助詞
エ　動詞＋尊敬の助動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋係助詞＋終助詞
オ　動詞＋尊敬の助動詞＋動詞＋過去の助動詞＋動詞＋終助詞＋感動詞

問23　「薬玉は菊の折まであるべきにやあらむ。」の傍線部と同じ助動詞を次の中から一つ選べ。

ア　舟路なれど、馬のはなむけす
イ　月も見で寝にきといひし人
ウ　世の中に物語といふもののあなるを、いかで見ばや
エ　まめまめしきものは、まさなかりなむ
オ　舟こぞりて泣きにけり

問24「かうしつつ死にもこそすれ」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　このまま死んでしまいたい
イ　このまま死んでしまうことはないだろう
ウ　このまま死んでしまってはたいへんだ
エ　このまま死ぬのだろうか、いや、そんなはずはない

問25「あるほどにだにあらば、思ひあらむにしたがひても語らひつべきを」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　命があるのもあとわずかということであれば、思いのままにすべてを語り尽くしてしまうのだが
イ　せめて命のある間に話す機会だけでもあれば、きっと思いのままに語らっておくことができるのだが
ウ　十分に時間が残されているのであれば、思いついたその時々に語りかけることもできるのだが
エ　生きている間でさえも話す機会がないのに、ましてや来世で思いのままに語らえるだろうか

問26 「きたなき聞こえさへ」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　強欲に申し上げることばかり
イ　好ましくない評判までも
ウ　家の恥となるぐらいの事件が
エ　落ちぶれたという噂すら

問27 「代はる代はる<u>かち</u>より歩み、御車に参り代はりつつ、…」の傍線部を漢字で記せ。（ただし、楷書（かいしょ）で記すこと）

問28　次の傍線部（a）「心して」・（b）「筆して」の文法的説明の組合せとして最も適当なものを、後から一つ選べ。

若君の御料をさへ細やかに(a)心して奉り給ひて、…
御手に持ち給へる(b)筆して、御堂の柱に物書き給ふを、…

ア　（a）名詞に副助詞が付いたもの　（b）名詞に格助詞が付いたもの
イ　（a）名詞に格助詞が付いたもの　（b）名詞に動詞連用形と接続助詞が付いたもの
ウ　（a）名詞に格助詞が付いたもの　（b）動詞連用形に接続助詞が付いたもの
エ　（a）動詞連用形に接続助詞が付いたもの　（b）名詞に動詞連用形と接続助詞が付いたもの
オ　（a）動詞連用形に接続助詞が付いたもの　（b）名詞に格助詞が付いたもの

問29　次の傍線部①〜④について、「の」の文法的説明として適当なものを、それぞれ後の中から一つ選びなさい。同じ記号を何度用いてもよい。

極楽寺は、この殿の①造り給へるところなり。
この時に、僧どもの御寺にやすく住むことは、殿の②御徳（とく）にてこそあれ。
※びんづら結ひたる童（わらは）の③、※楚（すはえ）持ちたるが、中門の方より入り来て、楚してこの鬼どもを片端（かたはし）より打ち払ひつれば、
『何物の④かくはするぞ』と問ひつれば…

※びんづら＝「みづら」の転。元服以前の髪型。　※楚＝木の枝で作ったむち。

ア　主格の格助詞　　イ　連体修飾格の格助詞　　ウ　同格の格助詞
エ　連用修飾格の格助詞　　オ　比喩の格助詞

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問30 「おしなべて峰もたひらになりななむ山の端なくは月も入らじを」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋助動詞＋助動詞　　イ　動詞＋動詞＋助動詞
ウ　動詞＋助詞＋助詞　　エ　動詞＋動詞＋助詞
オ　動詞＋助動詞＋助詞

問31 「ものへいなむと思ひたる気色」について、文法的な説明として適当でないものを次の中から選べ。

ア　ナ行変格活用の動詞が一度用いられている。
イ　四段活用の動詞が一度用いられている。
ウ　係助詞が一度用いられている。
エ　意志の意味の助動詞が一度用いられている。
オ　存続の意味の助動詞が一度用いられている。

問32 「更に知る人なし」の傍線部の意味としてもっとも適切なものを、次の中から選べ。

ア　再び　　イ　全く　　ウ　新たに　　エ　ますます

問33 次の空欄には助詞が一語入る。その助詞として最も適切なものを、記せ。

ありぬべき所をとらへて、人にすげさするに、（中略）とみにもさし入れぬを、「いで、ただなすげ［　］」と言ふを、…

問34 「いかでかはさらでは侍らん」を現代語に訳すとどのようになるか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ア　どうしてそうなるのでしょう。
イ　どうして、そうならないのでしょう。
ウ　どうして、そうなることがありましょう。
エ　どうして、そうならないことがありましょう。

問35 次の空欄に入れる言葉として最適なものを、後のア～オから選べ。

かの士（さぶらひ）、いかにもしてたすけ［　］と思案をめぐらせども、せんかたなし。

ア　ばや　　イ　べし　　ウ　たり　　エ　らむ　　オ　ざらむ

問36　次の傍線部を現代語訳せよ。

一条院隠れさせ給ひて、

　逢ふことも今はなき寝の夢ならでいつかは君をまたは見るべき

など詠ませ給へるも、いとめでたくこそ侍れ。

問37　次の傍線部a～cをア「尊敬語」、イ「謙譲語」、ウ「丁寧語」に分類するとき、それぞれ、どれに該当するかを一つ選べ。

いみじう辛（から）かるべきことにてなむ[a]侍るべきを、…

いかに[b]おぼしなりにけることにか、…

早うの人は、我より高き所に[c]まうでては、…

a＝　　　　b＝　　　　c＝

問38　次の傍線部ア〜エのうち、敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧の別）が他と異なるものを一つ選べ。

俊恵いはく、「五条三位入道の〜身にとりてのおもて歌と思ひ<u>給ふる</u>（ア）といはれしを、〜よそにはさもや定め侍るらむ、知り<u>給へ</u>（イ）ず。」と語りて〜、そのついでに、「わが歌の中には〜かのたぐひにせむと思ひ<u>給ふる</u>（ウ）。もし世の末におぼつかなくいふ人もあらば、かくこそいひしかと語り<u>給へ</u>（エ）」とぞ。

問39　「御車も、牛もいたづらに候ひぬれば、やがて奉りてこそは」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　お車も牛もなくなりましたので、姫君は少し遅れてこちらに参上なさいますよ。
イ　お車も牛も準備を終えましたので、姫君も急ぎお召し物を召されているところですよ。
ウ　お車も牛も余っていますので、姫君はそのままお乗りになってこられますよ。
エ　お車も牛も使い道がないので、そのうち私から姫君に献上いたしますよ。

問40　次の傍線部は誰に対する敬意を表しているか、最も適当なものを後の中から選べ。

中納言のことは音なくなりぬるを、中将の内侍<u>奏</u>してけるなんめりと心得て、女君にも聞こえ知らせ給ふ。

ア　中納言　　イ　中将の内侍　　ウ　女君　　エ　帝　　オ　世間の人々

第三講 単語・重要語句

問1 次の傍線部a・bの解釈として最も適当なものを、後のア〜オからそれぞれ一つずつ選べ。

三日、夕さりつかた、〜籬のむら竹の上に、愛宕・嵐の山々、[a]にほひやかに横ほれり。…

ア 美しく照りはえて　イ 香気を漂わせて　ウ 冷ややかに沈んで
エ ぼんやりと霞んで　オ 華やかにさかえて

〜ありし（姫君が書いた）御手習ひの、硯の下より出でたるを（兵部卿の宮が）取りて見給ふに、姫君はいと恥ずかしくて顔うち赤めつつ、傍らそむき給ふさま、[b]いとよしよししくにほひやかなり。

ア 実に風情があり、良い香りが漂っている
イ 実に才気にあふれ、魅力的な雰囲気である
ウ 実に上品で、輝くような美しさである
エ 実にものものしく、威厳に満ちた様子である
オ 実に奥ゆかしく、高貴な育ちを感じさせる

問2　「聞きあきらめん」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　聞いたうえで断念したい
イ　申し上げてほっとしたい
ウ　聞いてはっきりさせたい
エ　きっぱりと申し上げたい
オ　聞き飽きるほど聞きたい

問3　（光源氏が、最愛の妻である紫の上を亡くし、出家を決心したことを）「いかばかりなりしかば、かばかりの御心ざしならん」と、(注)山伏の御心にも、いとほしくもゆかしうもあたらしくも、さまざまにぞおぼえ給ひける。…

（注）山伏――ここでは朱雀院を指す。光源氏の兄で、すでに出家している。

ア　恋しくも趣のあるようにももったいなくも
イ　望ましくもすばらしくも新鮮にも
ウ　かわいそうにも知りたくも初めて見たようにも
エ　慕わしくも見たいとも残念にも
オ　気の毒にも心ひかれるようにも惜しくも

問4　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後から一つ選べ。

宣旨（せんじ）殿御太刀（たち）持ちて、「これは、いづくへか具しまゐらすべき、按察（あぜち）の三位（さんみ）殿に申せ」と仰せらるれども、…

ア　揃（そろ）えて　　イ　連れて　　ウ　返して
エ　持って　　オ　添えて

問5　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後から一つ選べ。

年のほど十五六ばかりなる姫君のなのめならず美しき、女房たち四五人して濡（ぬ）らさじと立ち隠す。

ア　きわだって美しい姫君
イ　初々しくて美しい姫君
ウ　目立たないが美しい姫君
エ　一見したところ美しい姫君
オ　評判にたがわず美しい姫君

問6 次の傍線部a・bの解釈として最も適当なものを、後のア〜オのうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(注)寂蓮(じゃくれん)は「[a]歌ほどいみじきことなし。猪(ゐのしし)のむくつけく恐ろしげなるものまで、『枯草(かるも)掻く臥(ふ)す猪(ゐ)の床(とこ)』など詠みぬれば、やさしくなれり」と申しける…

(注) 寂蓮――平安時代末期・鎌倉時代初期の有名な歌人、僧侶。

ア　歌ほど容易なものはない　　イ　歌ほど力強いものはない
ウ　歌ほど素晴らしいものはない　　エ　歌ほどやっかいなものはない
オ　歌ほど変わりやすいものはない

次の文章は『栄花物語』の一節である。あまりにも華美であった皇太后藤原妍子(ふじわらのけんし)の年始の大饗(たいきょう)（正月に行われる宴会）を、兄の関白藤原頼通(よりみち)がとがめる場面から始まっている。

関白殿うちに入らせ給(たま)ひて、御前(おまへ)に申させ給ふ。「今日の事、すべていと殊の外にけしからずせさせ給へり。この年ごろ世の中いとかう[b]いみじうなりにて侍(はべ)る。…」

ア　目新しげに　　イ　ぜいたくに　　ウ　ひかえめに　　エ　風変わりに　　オ　風雅に

問7　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

みるめこそあふみの海にかたからめ吹きだに通へ志賀の浦風
と詠みてやりたりけるより、いとど歌おぼえまさりにけり。

ア　歌人としての評判　　イ　和歌への理解
ウ　歌詠みとしての自信　　エ　歌人として生きる覚悟

問8「いかでか聞えむ。」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　なんとかしてお聞きしたいものです。
イ　どうやってお聞きすればいいでしょう。
ウ　どうしてそのようにお聞きになったのですか。
エ　どうしてお話し申し上げることができましょう。
オ　どうしてお話し申し上げられないことがありましょう。

問9　次の傍線部を現代語訳せよ。

智恵才覚、芸能言ふばかりなく、世に並びなく聞えありて、とりどりにさいはひ給ふ。

問10 次の文章を読んで、空欄Ⅰに入る語として最も適当なものを後の中から選べ。
(『蜻蛉日記』の作者藤原道綱母は、夫藤原兼家に新しく通う所ができたため、訪れが間遠となっていることに悩んでいる。)

六月になりぬ。ついたちかけて長雨いたうす。見出だして、独り言に、
わが宿の嘆きの下葉(したば)色深く　Ⅰ　にけりながめふるまに
など言ふほどに、七月になりぬ。

ア　うつろひ　　イ　ためらひ　　ウ　かげろひ
エ　やすらひ　　オ　おこなひ

問11 「こころ思ひあつめたまへるつらさも消えぬべし」の意味として、最もふさわしいものを次の中から一つ選べ。

ア　最近　　イ　いちずに　　ウ　心の中で　　エ　たくさん　　オ　このあたりで

問12 「今日は術(ずち)なし。右の大臣にまかせ申す」の傍線部の意味としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　手続きがわからない　　イ　どうしようもない
ウ　名案がない　　エ　異論がない

問13　次の傍線部ａ「まめなる」・ｂ「おどろおどろしく」・ｃ「こほち」の意味として最も適切なものを、後の中から一つずつ選べ。

[a]まめなる男ども二十人ばかりつかはして、……

ア　すばしっこい　　イ　体の小さい　　ウ　洗練された
エ　忠実な　　オ　暇な

麻柱に[b]おどろおどろしく二十人の人ののぼりてはべれば、……

ア　静まりかえって　　イ　整然として　　ウ　汚らしく
エ　みすぼらしく　　オ　仰々しく

この麻柱を[c]こほちて、人みな退きて、……

ア　移動させ　　イ　建てつけ　　ウ　取り壊し
エ　飾りをつけ　　オ　色を塗り

問14「あるじなどし、人々もの食ひて、……」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 饗応　イ 居住　ウ 差配　エ 主人　オ 紹介

問15「出でがてに」の意味として、最もふさわしいものを次の中から一つ選べ。

ア 月を待って　イ 戸のところで　ウ 帰るついでに
エ いつものように　オ 立ち去りにくそうに

問16「あるやうこそは」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア あらかじめ予想していたとおりだ
イ この上なくありがたいことだ
ウ 帝に意味をお尋ねしよう
エ 何かわけでもあるのだろう
オ 帝に事情をお話ししよう

問17 次の傍線部を現代語訳せよ。

ここも許しあるところにあらねば、しばしもたたずみなんは人わろければ、慌ただしくとくまかでぬ。

問18 「長者の家にかしづく女(むすめ)のありけるが、…」の傍線部の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　大切に仕えている　　イ　大切に育てている
ウ　妻として従っている　　エ　下女として使っている

問19 「この僧に対面して、物語し給ひけるが、かたはらの人々に語りていはく、…」の傍線部のここでの意味として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　自作の物語を語られた　　イ　雑談をなさった
ウ　霊験談を尋ねられた　　エ　霊験談を申し上げた

問20　次の傍線部の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

いたうわづらひたまひし御心地の後、いとあつしくなりたまひて、そこはかとなく悩みわたりたまふこと久しくなりぬ。

ア　いつのまにか　　イ　どこということもなく
ウ　とりとめもなく　　エ　はかなそうに
オ　不安そうに

問21　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

「さはれ、『来たるべからず』とはのたまひしかども、詣でむ」と思ひて、出で立ちて行く…

ア　どうなっているのだろう　　イ　ああ待ち遠しいことよ
ウ　もうどうなってもよい　　エ　もっともなことなので
オ　やはりよく考えると

問22　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

されば善空坊（ぜんくうばう）といへる道心者を<u>かたらひ</u>、布施（ふせ）とらせつ、ひと夜念仏してかれが菩提をとぶらひ侍りぬ。

　注　かれ…ここでは「狸」のこと。

ア　借り出して　　イ　頼み込んで　　ウ　だまして
エ　装って　　オ　協力して

問23　次の傍線部の単語の意味を書け。

いまはむかし、男二人して女一人を<u>よばひ</u>けり。

問24　次の傍線部を現代語訳せよ。

「多くの人の身をいたづらになして<u>あはざなる</u>かぐや姫は、いかばかりの女ぞと、まかりて、見て参れ。」とのたまふ。

問25　次の傍線部「ちぎりたりける」の説明として最も適切なものを、後の中から一つ選べ。

むかし、男、かたゐなかにすみけり。男、宮仕へしにとて、別れ惜(を)しみてゆきにけるままに、三年(みとせ)来ざりければ、待ちわびたりけるに、いとねむごろにいひける人に、「今宵あはむ」とちぎりたりけるに、この男来たりけり。「この戸あけたまへ」とたたきけれど、あけで、歌をなむよみていだしたりける。

あらたまのとしの三年を待ちわびてただ今宵こそ（注）新枕(にひまくら)すれ

（注）新枕…夫婦が初めて契りを結ぶこと。

ア　逢わないことを誓った　　イ　逢いたいと嘘をついた

ウ　結婚の約束をした　　エ　養子縁組をすることにした

オ　運命だと受け入れた

問26　次の傍線部Ａ・Ｂを現代語訳せよ。

下野の国に男女(をとこをんな)Ａ住みわたりけり。年ごろ住みけるほどに、男、妻(め)まうけて、心変りはてて、この家にありける物どもを、Ｂ今の妻のがり、かき払ひ持て運びいく。

問27　次の傍線部の解釈として、最も適当なものを後の中から選べ。

帥殿（そちどの）は今年となりては、いとど御心地重（おも）りて、今日や今日やと見えさせたまふ。<u>御心地いみじうならせたまへば</u>、この姫君二所、蔵人少将とを並（な）め据ゑて、北の方に聞えたまふ。

ア　ご病気が快復なさったので　　イ　ご気分がさわやかになられたので

ウ　ご心境が急変なさったので　　エ　ご体調が深刻になられたので

問28　次の傍線部は、具体的にどのようなことか、漢字二文字で答えよ。

絶え間がちになりける比、<u>例ならぬ事</u>おはしまして、久しうなりて、よろしくなり給ひて、

問29　次の傍線部の意味として、最も適当なものを後の中から選べ。

いと重くわづらふと聞けど、常にかよわき人にもあらねば、ほどなく<u>おこたらむ折</u>にこそと思ひてうち過ぎぬるほど、にはかによわくなりてつひにみまかりぬ。

ア　暇になったころ　　イ　怒りが薄れたころ

ウ　病が回復したころ　　エ　しばらくたったころ

問30 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

（源氏の大殿の）北の方、一所（ひとところ）は按察使の大納言の女（むすめ）、そこに男二人ものし給ふ。帥の宮の御女（むすめ）の腹には、女二人おはしけり。形見どもをうらやみなくとどめおきて、①競（きほ）ひかくれ給ひにし後、世を憂きものに懲りはてて、いと広くおもしろき宮にひとり住みにて、男・女・君だちをも、みな一つに迎へ寄せて、世のつねに②おぼしうつろふ御心も絶えて、一人の御羽（はね）の下に四所（よところ）を育み奉り給ひつつ、…（以下略）

問❶ 傍線部①の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　争うようにして、子供たちがお亡くなりになってしまった
イ　争うようにして、子供たちを人目につかないようにお匿（かくま）いになった
ウ　争うようにして、お二人の北の方がお亡くなりになってしまった
エ　争うようにして、お二人の北の方が出家なさった
オ　お二人の北の方は、子供たちをこっそりと競争させなさった

問❷ 傍線部②の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　出家するようなお気持ち
イ　別の御殿に移り住むようなお気持ち
ウ　子供たちを寵愛するお気持ち
エ　北の方お二人を愛するお気持ち
オ　後妻を迎えるようなお気持ち

問31 傍線部の意味として最も適当なものを、後の中ら選べ。

宇治の皇子、所詮我世にあればこそとて、むなしくならせ給ふ間、王仁（わに）といへる者、この歌を詠みて、…

ア　やはり自分こそ帝位につきたかったと考え、空虚な気持ちになられた
イ　つまり自身が生きているからいけないのだと、死んでおしまいになった
ウ　考えてみれば皇子に産まれたことが間違いだったと、固く辞退をなさった
エ　結果的に私は出世を考えたことがあると反省し、失踪しておしまいになった

問32　次の文章は、父・八の宮を亡くした姫宮（大君）と中の宮（中の君）が、宇治の地で女房（弁の尼）たちとわびしく過ごすところに、薫が慰問する場面である。これを読んで後の問いに答えよ。

御服（ぶく）[注]などはてて、脱（ぬ）ぎ捨（す）てたまへるにつけても、片時もおくれたてまつらむものと思はざりしを、はかなく過ぎにける月日のほどを思すに、…

注　御服…八の宮が亡くなった後、姫宮と中の宮が喪に服す期間のこと。

問　傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一瞬でも八の宮亡き後まで生き残っていられるだろうとは思わなかったのに
イ　いつまでも八の宮のおそばにいられるだろうとは思わなかったのに
ウ　近いうちに八の宮と別れて結婚できるだろうとは思わなかったのに
エ　時がたてばすべてを忘れて生きていけるだろうとは思わなかったのに
オ　いつかは幸せな日を迎えることができるだろうとは思わなかったのに

問33 次の傍線部の意味として最も適当なものを後の中から一つ選べ。

「あやし」など、おのがどち集まりて、

ア 怖れながら　イ 三々五々　ウ 自発的に
エ 仲間同士で　オ 密やかに

問34 「内君に託して、うらなくとどめ給ふ。」の傍線部の意味は何か。最適なものを次の中から選べ。

ア 仕方なく　イ すすりないて　ウ 哀れんで
エ 疑ったりすることなく　オ こっそりと

問35 「日夜のわいだめなく、まつはし給ひしとぞ。」の傍線部の意味は何か。最適なものを次の中から選べ。

ア 約束なく　イ 分別なく　ウ 変更なく
エ 休憩なく　オ 区別なく

★「男女が深い仲になる（結婚する）」の言い換え単語

かたらふ【語らふ】
みゆ【見ゆ】
みる【見る】
あふ【逢ふ】
すむ【住む】
ちぎる【契る】
ちぎりをむすぶ【契りを結ぶ】　注釈やリード文にあるときもある
＊浅からぬ契り
そでをむすぶ【袖を結ぶ】↔そでをたつ【袖を断つ】

かたらふ【語らふ】

❶語り合う
❷親しくつきあう
❸男女が言い交わす
❹（説得して）仲間に誘い入れる

みゆ【見ゆ】

❶目に映る・見える
❷思われる・感じられる
❸（人に）見られる
❹会う
❺（女が）結婚する

みる【見る】
❶目にする
❷見て判断する・理解する
❸経験する
❹会う
❺深い仲になる・夫婦となる・妻とする
❻世話をする

あふ【逢ふ】
❶出会う
❷結婚する

すむ【住む】
❶居住する
❷夫として女のもとに通う・結婚生活をいとなむ

ちぎる【契る】
❶約束する
❷夫婦の関係を結ぶ

〈恋愛のお作法〉

「垣間見（かいまみ）」
←「手紙（和歌）を送る」　＊懸想文（けさうぶみ）
←「返事（返歌）が来る」
←「文通スタート」＝交際開始
←「逢う」
←「三日連続通う」＝結婚成立　＊後朝（きぬぎぬ）の文（ふみ）
←「所顕（ところあらは）し（露顕し）」
←「通ひ婚」＝「男」⬇「女」

〈その他の恋愛系単語〉
・かよふ【通ふ】
・～のがり ＝～のもとへ
・さるべきにや（ありけむ）＝そうなる宿縁だったのであろうか

★「病気になる」の言い換え単語

わづらふ【煩う】
なやむ【悩む】
いたつく【病く・労く】
いたはる【労る】
れいならず【例ならず】
＊心地例ならず

わづらふ【煩う】
❶苦しむ・悩む
❷病気になる

なやむ【悩む】
❶病気になる
❷困る
❸うるさく非難する

いたつく【病く・労く】
❶病気になる
❷骨を折る・尽力する

いたはる【労る】
❶病気になる
❷骨を折る・尽力する

れいならず【例ならず】
❶いつもと違っている
❷病気である
（❸妊娠する）

＊ここち【心地】
❶気持ち
❷考え・思慮
❸様子
❹病気

〈その他の病気系の単語〉

・あつし【篤し】
❶病気が重い・危篤の状態
❷病気がちである

・おこたる【怠る】
❶なまける
❷病気がよくなる

・ひま【隙・暇】
❶すきま
❷絶え間
❸余暇
❹機会
❺仲たがい
❻休暇
（★小康状態）

・よのなかさわがし【世の中騒がし】＝疫病

・よのなかごこち【世の中心地】＝疫病

〈病気の原因〉

「物の怪（もののけ）」…死霊・生霊

〈治療法〉

「加持祈祷（かじきとう）」…災難を払ったり、物の怪を調伏（ちょうぶく）（＝霊を払い清めること）するためのお祈りや儀式。

★「死ぬ」の言い換え単語

うす【失す】
きゆ【消ゆ】
はつ【果つ】
かくる【隠る】
みまかる【身罷る】
あさましくなる
いかにもなる【如何にも成る】
はかなくなる【果敢無くなる】
むなしくなる【空しく成る】
いたづらになる【徒らに成る】
いふかひなくなる【言ふ甲斐無くなる】
かひなくなる【甲斐無くなる】
ともかくもなる
いぬ【去ぬ・往ぬ】
くもがくる【雲隠る】
けぶりとなる【煙となる】
ことぎる【事切る】
ひきいる【引き入る】

うす【失す】
❶（い）なくなる・消え去る
❷死ぬ

きゆ【消ゆ】
❶消える
❷意識がなくなる
❸死ぬ

はつ【果つ】
❶終わる
❷死ぬ

かくる【隠る】
❶隠れる
❷死ぬ

あさましくなる
❶驚きあきれる状態になる
❷死ぬ

いたづらになる【徒らに成る】
❶むだになる
❷死ぬ

ともかくもなる
❶どうなるかわからないが、ある結果になる
❷死ぬ

いぬ【往ぬ・去ぬ】
❶去る
❷過ぎ去る
❸死ぬ

くもがくる【雲隠る】
❶雲に隠れる
❷（貴人が）死ぬ

こときる【事切る】
❶死ぬ
❷決着がつく

ひきいる【引き入る】
❶引っ込む
❷隠遁する
❸控え目にする
❹死ぬ

〈その他〉
・さらぬわかれ【避らぬ別れ】＝死別

第四講　総合演習問題

問1　次の波線部a〜cの敬語の種類の組み合わせとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

「暗くなりぬれば、まゐらぬなり。これ、かしこのなり、「見たまへ」となむ言ふ。
「『生きて生けらぬ』と聞こえよ」と言はせて、……

ア　a　尊敬　　b　尊敬　　c　謙譲
イ　a　謙譲　　b　尊敬　　c　謙譲
ウ　a　謙譲　　b　尊敬　　c　丁寧
エ　a　丁寧　　b　謙譲　　c　丁寧

問2　「しづ心なく思ひ奉りけるこそあさましけれ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　身のほどを知らず恋い焦がれたのは嘆かわしいことだ
イ　気持ちが静まらずお慕いしたのは驚きあきれたことだ
ウ　見境なく恋心をお伝えになったのはあさはかなことだ
エ　冷静な心を欠いたまま判断なさったのは情けないことだ
オ　理性を失い好意をお寄せ申し上げるのは恐ろしいことだ

問3　「風だにも思はぬかたに寄せざらばこの世のことはかの世にも見む」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　あなたはまるで風のようにいつも思いがけない時にいらっしゃるものだから、私はいつも戸惑い、現世にありながら来世を生きているような心地がしていましたよ。

イ　風さえも思い通りに吹き寄せることはないのに、ましてや自分の人生は思いのままになることはなく、現世と同じように来世でもみじめな思いをするのでしょう。

ウ　せめて風だけでも、その力で私を思いもよらぬ彼岸へ吹き寄せてくれるのでなければ、現世と同じく来世でも夫に対するうらみや息子に対する心配でつらい思いをするでしょう。

エ　世間の風向きが思いも寄らぬ方向へ変わってしまうということさえなければ、私は現世と同じように来世でも夫や息子と幸せに暮らすことができるでしょう。

問4　「おのれも慎まば、右大将のために悪しうもこそあれ。」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　私が身を慎むのは、右大将に具合の悪いことが起こってほしいと思うからだ。

イ　私が身を慎むことは、右大将のためにならないはずがない。

ウ　私も身を慎んだならば、右大将にとってよくないことになると大変だ。

エ　私も一緒に身を慎むと、右大将は気を悪くするに違いない。

オ　私が身を慎まないことに、右大将は機嫌を損ねるだろう。

問5　「らうたげに恋ひ聞こゆめりしを、選(え)り残し給へる、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いじらしい様子でお慕い申し上げているようだったが
イ　いじらしげに恋い焦がれているらしいと聞いていたが
ウ　かわいらしげに慕う人の様子を聞いていたようだが
エ　かわいらしいことに恋しいと申し上げていたようだが
オ　かわいそうなことに恋しくお思い申し上げているようだったが

問6　「あきらめてしがな」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　宮仕えを辞めてしまいたい
イ　真実をはっきりさせたい
ウ　思いを断ち切りたい
エ　胸の内を聞いてほしい
オ　私のことを忘れてほしい

問7「そこらの燕子うまざらむやは」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　周囲の燕が子を産むことがあろうか
イ　普通の燕が子を産むことがあろうか
ウ　普通の燕なら子を産まないことがあろうか
エ　多くの燕が子を産まないことがあろうか
オ　多くの燕が子を産むことはあろうか

問8「さらに、夜さり、この寮にまうで来」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もう一度、夜になったら、この寮に参上せよ
イ　もう一度、明け方になったら、この寮に参上せよ
ウ　あとで、夜が明けたら、この寮に参上せよ
エ　あとで、夜になったら、この寮に参上するよ
オ　何度か、夜が更けたら、この寮に参上するよ

問9　「いかに守るとも、それにさはらじ」の現代語として最も適当なものを、次の中から選べ。

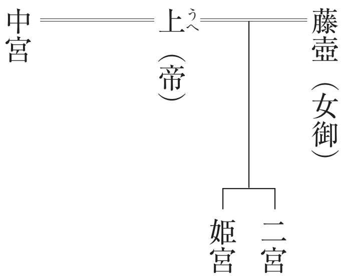
ア　どのように守るとしても、ふれさせることはあるまい。
イ　どんなに守ったとしても、ふれさせないつもりだ。
ウ　どんなに守ったとしても、妨げられることはないだろう。
エ　どうやって守って、妨げられないようにしたらよいだろうか。
オ　どのように守ったとしても、それにさわることはできない。

問10　「いとつれづれに世の中のうらめしきことのみ思へば苦しきを、行ひは許されず、……」の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　朝廷の仕事に励むこと
イ　故郷を捨て唐土まで行くこと
ウ　一旗揚げに東国まで行くこと
エ　出家して仏道修行をすること

問11 次の文章は、『恋路(こいぢ)ゆかしき大将』の一節で、恋路大将が大風の吹いた翌朝に参内する場面である。これを読んで、後の問い答えよ。

暁方になるままに、おびたたしう吹きまさりたる風の紛れに、いと疾(と)う内裏(うち)へ参り給(たま)ひぬ。（中略）二宮(にのみや)、御簾(みす)を高くもたげさせ給へるに、十一、二ばかりにやと見ゆる御丈立(たけだ)ちにて、（中略）なほけしき異(こと)にて気高う、匂(にほ)ひも光も類(たぐひ)なき御さまは、姫宮にこそはおはしますめれ。（中略）世の常に思ひ寄るべき御年のほどならねど、ただまぼり奉らまほしきに、……



問 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　恋路大将は二宮・姫宮の兄妹を後見していらっしゃったが
イ　姫宮が雛屋を一途(いちず)に見つめ続けていらっしゃると
ウ　恋路大将は姫宮をしっかりお守り申し上げたが
エ　恋路大将は姫宮をひたすら見つめ申し上げたく思っていると
オ　二宮は妹の姫宮を何とかお守り申し上げたいと願っていたが

問12 次の文章は『源氏物語』（夕霧の巻）の一節である。三条殿（通称「雲居雁(くもいのかり)」）の夫である大将殿（通称「夕霧」）は、妻子を愛する実直な人物で知られていたが、別の女性（通称「落葉宮(おちばのみや)」）に心奪われ、その女性の意に反して、深い仲となってしまった。以下は、これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿が、子どもたちのうち、姫君たちと幼い弟妹たちを連れて、実家へ帰る場面から始まる。これを読んで、後の問いに答えよ。

三条殿、「限りなめり」と、「『さしもやは』とこそ、かつは頼みつれ、『まめ人の心変はるは名残なくなむ』と聞きしは、まことなりけり」と、世を試みつる心地して、「<u>いかさまにしてこのなめげさを見じ</u>」と思(おぼ)しければ、（注）大殿へ「方違(かたたが)へむ」とて渡り給(たま)ひにけるを、…

（注）大殿――三条殿の父の邸宅。

問 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　いかなる手段を用いても私はみじめな目に会うまい
イ　どうすれば私への失礼な態度を見ずにすむだろう
ウ　どうしてこの冷淡な振る舞いを見ていられよう
エ　だましてでも夫にひどい目を見せずにおくまい
オ　何としても夫の無礼なしうちを目にするまい

問13　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

牛飼、牛をば門に結びて、扉の迫（はさま）の人通るべくもなきより入るとて、男を引きて、「汝もともに入れ」と言へば、男、「いかでかこの迫（はさま）よりは入（い）らむ」と言ふを、童、「ただ入れ」とて…

ア　こんな隙間からは入（はい）りたくない
イ　この隙間からなら入（はい）れるだろう
ウ　なんとかこの隙間から入（はい）りたい
エ　いつからこの隙間に入（はい）れるのか
オ　この隙間からは入（はい）れないだろう

問14　次の傍線部は誰への敬意をあらわす語か。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

このころの左大臣と聞こゆるは、関白殿の御弟にこそおはすれ。御身の才なども賢く、何ごとも兄の殿にはたちまさり給へれば、帝もいみじく重きものに思ひ聞こえ給へり。

ア　帝　　イ　先帝　　ウ　兄の殿
エ　左大臣　　オ　関白殿

問15　次の傍線線ａ「たてまつり」、ｂ「侍り」は、それぞれ誰に対して敬意を払う表現か。最も適切な人物を後の中から一つずつ選べ。

別当の参りたりければ、東宮も御直衣ａたてまつりなどして、御用意ありけるに、別当の、検非違使召して、「犯しの者は召し捕(と)りたりや」と問はれければ、「既に召してｂ侍り」といひければこそ、ともかくも申さでまかり出でられにけれ。

ア　検非違使の一役人　　イ　東宮　　ウ　女房　　エ　別当

ａ＝　　　　ｂ＝

問16　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、後の中から一つ選べ。

承華殿といふところにて、帝、文作り遊びし給ふに、中納言召されて参り給へり。

ア　中納言に対する尊敬語　＋　帝に対する尊敬語
イ　中納言に対する尊敬語　＋　大臣や后に対する尊敬語
ウ　大臣や后に対する謙譲語　＋　帝に対する尊敬語
エ　帝に対する謙譲語　＋　中納言に対する丁寧語
オ　帝に対する謙譲語　＋　中納言に対する尊敬語

付録

★センター試験で過去に出題された単語・慣用句

おぼえ（名詞）＝❶よい評判。　❷寵愛を受けること。
にほふ＝❶美しく染まる。　❷つややかに照り輝く。　❸栄える。　❹かおる。香気がただよう。
あきらむ＝❶物事を見きわめる。明らかにする。　❷気持ちを晴らす。
ゆかし＝❶心がひかれる。見たい。聞きたい。知りたい。　❷なつかしい。
具す＝❶備わる。　❷従う。一緒に行く。　❸夫婦となる。
いみじ＝❶（程度が）はなはだしい。　❷すばらしい。　❸ひどい。
なべてならず
なのめならず
おろかならず
おぼろけならず
＝並一通りでない。格別である。
にげなし＝つりあわない。ふさわしくない。似合わない。
あやし＝❶不思議だ。　❷身分が低い。　❸粗末だ。
念ず＝❶祈る。　❷我慢する。
あへて〜打消＝まったく〜ない。決して〜ない。
あぢきなし＝❶不当だ。　❷無益だ。　❸おもしろくない。
こころざし＝❶意向。　❷愛情。誠意。　❸贈り物。　❹供養。
になし＝二つとない。比べるものがない。すばらしい。

なめげなり＝失礼だ。無礼だ。
いざ、給へ＝さあ、いらっしゃい。　＊「98　国語Ⅰ・追試」でも出題。
心もとなし＝❶はっきりしない。　❷気がかりだ。不安だ。　❸待ち遠しい。
飽かず＝❶満足しなく。物足りない。名残惜しく。　❷飽きないで。
　＊「90　追試」でも「あかぬ＝名残惜しい」で出題。
かひなし＝❶効果がない。むだだ。　❷とるにたりない。たいしたことがない。
な〜そ＝〜するな。〜してくれるな。
はしたなり＝中途半端だ。
思ひ屈す＝あれこれ考えて気がめいる。ふさぎこむ。
本意＝本来の意志、目的。
すかす＝❶だます。　❷おだてる。　❸慰めなだめる。
うたてし＝❶嘆かわしい。気にくわない。　❷情けない。気の毒だ。
たまさかなり＝❶偶然にあうさま。　❷たまたま。　❸もしも。
えんなり＝❶優美なさま。　❷色っぽいさま。
もとより＝❶前から。　❷もともと。　❸もちろん。
まぼる＝❶見つめる。　❷守る。　＊「まもる」と同義語。
まめだつ＝まじめにふるまう。本気になる。
まみ＝❶目つき。　❷目もと。
そこ＝❶そこ（場所）。　❷それ。　❸あなた（親しい目下の者や友人に対して用いる）。
おいらかなり＝❶おっとりしている。　❷あっさりしている。
びんなし＝❶都合が悪い。　❷よくない。
優なり＝❶優れている。　❷優雅だ。上品だ。

やさし＝❶つらい。　❷恥ずかしい。　❸優美である。　❹けなげだ。

ねんごろなり＝❶親切なさま。熱心だ。丁寧だ。　❷親しみ深いさま。　❸正直なさま。

しほたる＝❶海水、雨、露などに濡れること。　❷涙を流す。

とばかり＝ちょっとの間。

いとほし＝❶気の毒だ。　❷いやだ。　❸かわいい。

あたらし＝❶惜しい。　❷新しい。

そばむ＝❶横向きになる。　❷ひがむ。　❸かたよる。

あから目＝❶よそ見。　❷浮気。　❸急に姿が見えなくなること。

岩木＝岩と木 ⬇ 感情のないもののたとえで用いる。

＊岩木にあらねば＝心を持たない岩や木と違って、感情が無いというわけではないので（「02　国語Ⅰ・追試」より）

こころすごし＝ものさびしい。人けがなく、気味が悪い。

かまへて＝❶（＋意志・願望）ぜひとも。　❷（＋命令）必ず。　❸（＋禁止）決して。　＊かまへて＝「**強調**」の働き！

さるほどに＝❶そうこうしているうちに。まもなく。　❷（話題転換の場面）さて。

落ちゐる＝心が静まる。落ち着く。

かきくらす＝❶雲が空一面を暗くする。　❷心を暗くする。悲しみにくれる。

埋もれいたし＝❶気が晴れ晴れしない。　❷内気だ。

ただならず＝❶ふつうでない。　❷すぐれている。　❸妊娠している。

たづき＝❶手段・方法。　❷様子。

おこたる＝❶なまける。　❷病気がよくなる。

所狭（ところせ）し＝❶場所が狭い。　❷窮屈だ。気づまりだ。　❸やっかいだ。

あまた＝❶数多く。　❷非常に。

かづく（下二段）＝❶かぶせる。　❷褒美として与える。

＊かづく（四段）＝❶かぶる。　❷褒美としていただく。

心にくし＝❶奥ゆかしい。　❷警戒すべきである。　❸不審だ。

さらば＝それならば。それでは。

念ず＝❶祈る。　❷我慢する。

言ふばかりなし＝何とも言いようがない。言い尽くせない。

V＋がてに＝Vできなくて

かへさ＝帰り道。帰る途中。

いらふ＝答える。

させる体言〜打消＝たいした体言もない。

かよふ＝❶行き来する。　❷よく知っている。　❸男が女のもとに行く。　❹よく似る。　❺交差する。

つつまし＝❶遠慮される。　❷恥ずかしい。

やすらふ＝❶ためらう。　❷とどまる。　❸休む。

さすがに＝そうはいってもやはり。

かしづく＝❶大切に育てる。　❷大切に世話をする。

あさまし＝❶驚きあきれる。　❷興ざめだ。　❸話にならない。　❹ひどい。

言ふかひなくなる＝死ぬ。

よそふ＝❶比べる。　❷かこつける。関係づける。

いかがはせむ＝❶〈反語〉どうしようか、いや、どうしようもない。　❷〈疑問〉どうしたらよいだろうか。

よも〜じ＝まさか〜ないだろう

V＋はつ＝すっかりVきる

〜ながら＝❶〜のに　❷〜ながら　❸〜のまま　❹全部。〜中。

はしたなし＝❶中途半端だ。　❷みっともない。　❸そっけない。　❹（雨・風などが）はげしい。

おほかた＝❶一般。おおよそのこと。　❷ふつうであるさま。

かいま見＝物のすきまからのぞき見ること。

恥づかし＝❶気がひける。　❷（こちらが恥ずかしくなるほど相手が）立派だ。

定めて＝必ず。きっと。

ついゐる＝❶かしこまって座る。　❷ちょっと腰を下ろす。

年ごろ＝長年。数年来。

おぼつかなし＝❶はっきりしない。　❷気がかりだ。　❸待ち遠しい。

ことわりなり＝当然である。もっともである。

市（いち）をなす＝人が大勢集まる。

埒（らち）あく＝きまりがつく。きまりをつける。

＊埒もない＝筋が通らない。

なかなか＝❶なまじっか。　❷かえって。

心苦し＝❶つらい。　❷心配だ。　❸気の毒だ。

せちなり＝❶ひたすらである。　❷すばらしい。

かしこし＝❶恐ろしい。　❷恐れ多い。　❸利口である。　❹非常に。

なづむ＝❶行き悩む。　❷悩みわずらう。　❸こだわる。　❹ひたすら思いこがれる。

とし＝❶早い。　❷速い。　＊「とく」の形が多い。

かたみに＝お互いに。

あなかま＝しいっ、静かに。

やつす＝❶目立たないように姿を変える。　❷出家をして姿を変える。

おこたり申す＝謝罪する。

なづさふ＝❶水に浸る。　❷慣れ親しむ。

ほだし＝❶手足の自由を奪う道具。 ❷自由を束縛するもの。➡「出家の妨げ」＝親、恋人などを指す場合が多い。
めやすし＝見苦しくない。感じがよい。
をさをさ〜打消＝ほとんど〜ない。
なまめく＝❶若々しく美しい。 ❷優美である。 ❸もの静かで落ち着いている。 ❹色っぽい。
よしなし＝❶理由がない。 ❷手段・方法がない。 ❸関係がない。 ❹無益である。 ❺よくない。
つきづきし＝似つかわしい。
わびし＝❶苦しい。 ❷さびしい。 ❸貧しい。 ❹おもしろくない。
いとふ＝❶いやだと思う。 ＊「世をいとふ」＝出家する。
うたてし＝❶嘆かわしい。 ❷情けない。
やすからず＝不安だ。いらいらする。妬ましく思う。
なやまし＝（病気・心理的なことで）気分が悪い。
おどろく＝❶びっくりする。 ❷はっと気づく。 ❸目が覚める。
こころづくし＝いろいろと物思いすること。気をもむこと。
やがて＝❶そのまま。 ❷すぐに。
おこなふ＝❶仏道修行をする。 ❷とり行う。実行する。
やをら＝静かに。そっと。
われは顔＝自分こそはりっぱだという顔つき。自分だけがすぐれている顔つき。得意顔。自慢顔。

解答

【第一講】

〈解答〉

問1 ア　格助詞「に」
　イ　形容動詞ナリ活用「むべなり」の連用形の活用語尾

問2 A ア　B ウ　C オ　D イ

問3 A イ　B ア　**問4** A ア　B オ　**問5** ウ　**問6** オ　**問7** イ

問8 イ　**問9** イ　**問10** カ　**問11** エ　**問12** オ　**問13** イ

〈空所解答（太字）〉

●「に」の識別

③ 完了
「連用形」＋に

④ 断定
「体言・連体形」＋に

⑤ 格助詞
「体言・連体形」＋に

⑥ 接続助詞
「連体形」＋に

★気をつけるべき「に」

○下に「あり」があっても「あり＝**存在する**」の意味がある場合は「**格助詞**」。

●「なり」の識別

①　動詞

〜「**ず**」「**と**」「**に**」「**く**」「**う**」＋なり

②　形容動詞

〜「**か**」「**げ**」「**ら**」＋なり

③　断定・存在〈「**に**」＋あり〉

「**体言・連体形**」＋なり

＊「**場所**」＋なり＝存在

④　伝聞・推定〈「**音**（ね）」＋あり〉

「**終止形**」＋なり

＊ラ変型＝「**連体形**」に付く

★撥音便（無表記）＋なり＝「**伝聞・推定**」

〜「**あ**」「**か**」「**ざ**」「**た**」「**な**」＋（ん）なり

＊「ななり」「なめり」の「な」＝「**断定**」

●「ぬ」の識別

①　打消

「**未然形**」＋ぬ

ぬ＋「**連体形**」接続の語

②　完了・強意

「**連用形**」＋ぬ

ぬ＋文末の形・「**終止形**」接続の語

＊文末の時は「**疑問副詞**・係り結びの法則」に注意！

●「ね」の識別

①打消

「**未然**形」+ね

②完了

「**連用**形」+ね

●「る・れ」の識別

①受身・可能・自発・尊敬「る」

上の音が「a」段

②完了・存続「り」

上の音が「e」段

●「らむ」の識別

①現在推量「らむ」

上の音が「u」段

②完了「り」+推量「む」

上の音が「e」段

③「~ら」となる活用語の未然形+推量「む」

上の音が「a」段が多い

●「し」の識別

②「**連用形**」＋し

●「なむ」の識別

①他者願望「なむ」

「**未然形**」＋なむ

②完了・強意「ぬ」＋推量「む」

「**連用形**」＋なむ

④強意の係助詞

＊「**〜く**」＋なむ／「〜**に**」＋なむ

●「ん＝む」の意味

②「文中」の場合

む＋体言➡「**婉曲**」が多い。

③「文末」の場合

「と」の上の「む」➡「**意志**」が多い。

●「て」の識別

①接続助詞「て」

「**連用形**」につき、下に助動詞が「**ない**」

②完了の助動詞「つ」

「**連用形**」につき、下に助動詞が「**ある**」

【第二講】

〈模範解答〉

問1　ウ　【第一講　チャプター1】　※【講・チャプター】は『高3　古文〈文法編〉』より（以下同）

問2　ウ　【第一講　チャプター2】

問3　イ　【第一講　チャプター3】

問4　①ウ　②ウ　③オ　④エ　【第一講　チャプター1】

問5　ア　【第二講　チャプター2】

問6　a キ　【第十講　チャプター3】　b コ　【第四講　チャプター3】

問7　①カ　【第五講　チャプター4】　②ウ　【第三講　チャプター1】
　　③オ　【第七講　チャプター1】　④エ　【第三講　チャプター2】
　　⑤キ　【第二講　チャプター3】

問8　①ウ　【第五講　チャプター1】　②オ　【第三講　チャプター2】

問9　オ　【第四講　チャプター1】

問10　ア　【第四講　チャプター2】

問11　イ　【第四講　チャプター1】

問12　ア　【「に」＝第十一講　チャプター3　／　「ぬ」＝第三講　チャプター2】

問13　エ　【第六講　チャプター3】

問14　イ　【第七講　チャプター2】

問15　ア　【第六講　チャプター1】

問16　オ　【第六講　チャプター1】

問17　まじき　【断定「なり」の形容詞型への接続＝第七講　チャプター3　／　「まじ」＝第六講　チャプター2】

問18　イ　【a「ば」の接続＝第八講　チャプター3　／
b・c・d「べし・ぬ・なり」の接続・係り結び＝第二講　チャプター2　／
d「き」の活用＝第二講　チャプター1】

問19　オ　【「おはす」＝第一講　チャプター1　／　「に」＝第十一講　チャプター3】

問20　ウ　【「る」の識別＝第四講　チャプター2　／　「に」＝第十一講　チャプター3】

問21　オ　【「むずる」＝第五講　チャプター1　／　「なめり」＝第七講　チャプター3】

問22　エ　【「せ」の識別＝第四講　チャプター4　／　補助動詞＝第十二講　チャプター1　／
「に」＝第十一講　チャプター3　／　「かし」＝第十講　チャプター1】

問23　ア　【「に」＝第十一講　チャプター3　／　「なり」＝第七講　チャプター2・3】

問24　ウ　【第八講　チャプター2】

問25　イ　【第十講　チャプター2】

問26　イ　【第十講　チャプター2】

問27　徒歩　【第九講　チャプター5】

問28　オ　【第九講　チャプター5】

問29　①ア　②イ　③ウ　④ア　【第九講　チャプター3】

問30　オ　【第十一講　チャプター1】

問31　ウ　【第十一講　チャプター1】

問32　イ　【第十講　チャプター4】

問33　そ　【第十講　チャプター4】

問34　エ　【「いかでか」＝第十講　チャプター4　／　「かは」＝第八講　チャプター1　／　「で」＝第九講　チャプター1】

問35　ア　【「ばや」＝第十講　チャプター1　／　「ども」＝第八講　チャプター3】

問36　夢ではなく、いつ君（あなた・一条院）とまた会うことができるだろうか、いや、できない
【「なり」＝第七講　チャプター1　／「で」＝第九講　チャプター1　／「かは」＝第八講　チャプター1　／「べし」＝第六講　チャプター2】

問37　a　ウ　**【第十二講　チャプター1】**　b　ア　**【第十二講　チャプター3】**
c　イ　**【第十二講　チャプター3】**

問38　エ　**【第十二講　チャプター2】**

問39　ウ　**【第十二講　チャプター3】**

問40　エ　**【第十二講　チャプター4】**

【第三講】

〔模範解答〕

問1 ａ ア ｂ ウ 問2 ウ 問3 オ 問4 エ 問5 ア
問6 ａ ウ ｂ イ 問7 ア 問8 エ 問9 世間でたぐいなく評判が高くて
問10 ア 問11 エ 問12 イ 問13 ａ エ ｂ オ ｃ ウ
問14 ア 問15 オ 問16 エ 問17 体裁が悪いので 問18 イ 問19 イ
問20 イ 問21 ウ 問22 イ 問23 求婚する 問24 結婚しないという
問25 ウ 問26 ａ 夫婦として暮らしてきた ｂ 今の妻のもとへ 問27 エ
問28 病気 問29 ウ 問30 ❶ ウ ❷ オ 問31 イ 問32 ア
問33 エ 問34 エ 問35 オ

【第四講】

〔解答〕

問1 イ
問2 イ
問3 ウ
問4 ウ
問5 ア
問6 イ
問7 エ
問8 ア
問9 ウ
問10 エ
問11 エ
問12 オ
問13 オ
問14 エ
問15 a イ　b エ
問16 オ

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。